



富士市のごみを考える会 事務長
ふじさんネットワーク 幹事
富士市議会議員

小野由美子さん

Interview

一人一人の心がけが 美しい富士の環境を守る



山田辰美さんに全面監修いただいた、
新環境クリーンセンターのビオトープ。

ふじさんネットワークに 入会したきっかけ

私がふじさんネットワークに入ったのは、山田辰美先生の紹介でした。発足当時、富士山のごみ問題は大きなテーマでしたので、お役に立てることもあるかと思い入会しました。

富士市のごみを考える会 での活動について

富士市のごみを考える会は平成14年ごろから市民活動として、みんなで集まってごみを減量しようと始まった会です。国土交通省の方から「富士山ぐるり街道の富士市の部分が特にごみが多い」というお叱りをうけて、ごみ減量大作戦を実行することとなりました。

初めは、常葉大学の教授やゼミ生等、少人数での活動でしたが、ごみの量がものすごく多く、非常に困りました。その後、第一テレビさんが参加してくれたことをきっかけに多くの人が参加してくれるようになり、以前とは見違えるようにきれいになったと思

います。きれいになれば捨てる人が減ってきて、良い循環が生まれるようになりました。捨てる人が増えるのではなく、ごみを捨てる人が減れば自然ときれいな環境を守ることができます。



紙芝居「富士山とごみわたし」を紹介する小野幹事。

富士市新環境クリーンセンター併設のビオトープを作るにあたり、よその土をいれるということは、その土地の環境を変えてしまうため、ほかの地域から土は入れないようにしました。新しい種が入ると、もともとある種が廃れることにつながります。植生を守ることとは非常に大切です。生き物が増えればいいというわけではなく、育てることが重要です。

富士山の自然を守るために、ある理事が、富士市、富士駅、新富士



手づくりのごみ減量クイズは子供たちにも人気です。

駅から大月線をつかって、富士宮を通って五合目まで登山鉄道を作るといった構想を練っていました。そしてそこにエコな宿泊施設を作ることによって、静岡県を潤すことができ、富士山の保全にもつながると考えているようです。

観光は自然を維持するうえで非常に難しい問題です。観光地となると多くの人が訪れるようになります。訪れるすべての人が環境保護についての知識がないと、自然保護が難しくなります。だからこそ、自然保護に関する情報を多くの人に発信することが重要となります。

「マウント富士」という単語は、外国人でも殆どの人に通じるほど、富士山は世界的に見ても非常に



好天に恵まれた新環境クリーンセンター展望台で。
左から熊谷さん、石川さん、小野さん、平田さん。

富士山は日本を代表する山であり、日本のシンボルとなっています。だからこそそういったいろいろな関心を持ってもらいたいと思います。ごみを捨てるという行為は関心がないからこそ生まれます。

ふじさんネットワークの 会員様にに向けて

有名な山です。日本を代表する山だからこそ、きれいに保ちたいという気持ちになります。外国の方が登山する際に、残念な気持ちにさせないためにもきれいに保ちたいですね。



刊行物(ニュースレター)

一人一人が関心を持てば必ずきれいにすることができます。関心が増えれば、外来種の問題も防ぐことができるようになります。「この種は違うぞ」という関心の目で歩けば、少しは環境の変化を食い止めることができます。みんなで一緒に美しい富士山を守っていきましょう。

今後について(情報発信)

新環境クリーンセンター循環啓発棟ふじさんエコトピアは、10月にオープンしたばかりの新しい施設です。多くの人に参加していただき様々な講座をしていただきたいです。ぜひ、ふじさんエコトピアに遊びに来てください。コロナの時期ですが、広い講堂があり、ソーシャルディスタンスがとれる状態となっています。安心してお越しください。



山田辰美先生とピオトープで集合写真

おの ゆ み こ 小野由美子氏

1956年生まれ。NPO法人富士市のごみを考える会理事長、理事を歴任し、現事務局長。環境カウンセラー、富士市環境アドバイザー、静岡県環境学習コーディネーター、静岡県環境学習指導員、静岡県地球温暖化防止活動推進員など。微力ですが、大好きな富士山に恩返しできれば幸いです。

